

【随想】比較電柱論：欧州と日本の電線地中化

この連載も最終回となりました。志熊事務局員の考察です。

ヨーロッパでの電線地中化(4)

-考察-

- (1) ヨーロッパでは国民の反対から市街地への電柱・電線敷設は不可能になっている。この背景には歴史ある都市や景観を守るといふ国民の強い意志があるようだ。
日本も長い歴史と多くの史跡を持つ国にもかかわらず京都や奈良は昔の景観を失い、電柱が乱立しているのはなぜだろうか。明治維新以来、欧米に追い付け、追い越せという経済や産業を重視した政策から一番大切な物を失ってしまったように思える。
- (2) 高いコストにも拘らず電線地中化を進めるヨーロッパは、市民の強い意志とともに電力の信頼性、安全性や環境保全に高い価値を認める国・自治体や電力会社の意識があることを知った。ヨーロッパ人からは“Priceless(金では買えない)”という言葉をよく聞く。史跡や景観は Priceless な価値なのだろう。全てを金銭で判断するアメリカのレポートでは「かかるコストと得られるメリットを金額で評価し、電線地中化を進めるべき。」と結論つけているが、それでも新しい電力ライン投資の 51%が地中化である。(1993-2002 年の平均値)
- (3) 人命に対する評価も重要である。オーストラリアでは自動車事故防止のためにも電線地中化は推進すべきと結論付けている。日本においても国土交通省は電柱による交通事故のデータを集計しており、それによれば 2004 年の電柱衝突事故は全事故の 0.5% (4509 件) であるが死亡事故は 3.6% (257 件) で、電柱衝突による死亡率が高いことを指摘しているが、残念ながら電柱があることは全く問題視されていない。人命も Priceless な筈である。
- (4) 日本では、電線が地上にあることにより台風や地震という自然災害による電力事故の復旧が迅速であるという意見がある。確かに地中化電線の修復には数日の期間が必要で、また仮配電線の敷設を含め数倍のコストがかかり、ヨーロッパの文献でもこれは電線地中化のデメリットとして指摘されている。しかし、本質は自然災害によっても電力事故がおこらないようにすることであり、1999 年の暴風雨後のフランスの施策のように、信頼性が高い電線地中化を推進すべきである。
- (5) 地中化のコストについては正確な数値の比較は行えなかったが、ヨーロッパ、アメリカともコストは日本の標準値(5~7億円/1km)に比べ大幅に安い。
地中化を加速するためにはローコスト化の工法を研究・開発するとともに、欧米の工法、材料の採用も検討すべきではないか。
- (6) ヨーロッパでは今後も市街地の電線の地中化は進み、現在ある電柱が交換時期にくる20~30年後には市街地から電柱は無くなると思われる。中東の新興国では新しい都市はヨーロッパに学び電線は地中化され建設されている。中国ではすでに地方都市でも電線は地中化されている。日本は、国交省の中期計画では年間 500 kmの遅々たるペースである。この儘で推移すると今世紀後半には日本だけが都市に電柱が乱立する後進国となってしまう。

このようなことにならないため、今こそ国は 100 年の計を立てて電線地中化を推進する必要がある。

志熊 晴一

完

「私達」が住む日本の空を、「私達」が美しい空へ変えましょう!

美空~MISORA~

第 25 号

発行日:2010年8月10日(月)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇

【活動報告】

1. 第三回総会を開催しました。

6月29日、第三回総会を立命館大学大阪オフィスで開催しました。当日は理事7名及び正会員5名が出席され、昨年度の活動や今年度の活動計画等について話し合いが行われました。その後「異業種交流&意見交換会」を行い、出席者による積極的な意見交換が行われました。

総会での話し合い内容を含めた当NPO法人の活動報告、活動計画は本号の【特集】で詳しくご紹介します。

2. 『電柱のないまちづくり』出版記念セミナーを開催します。

8月20日、当NPO法人の編集による書籍『電柱のないまちづくり』の出版を記念し、遅れている日本の“電線類地中化”の気運を高め、活路を拓くために、下記により出版記念セミナーを開催します。書籍には書けなかったマル秘話も聞けるかもしれません。

ぜひご参加ください。皆様のご参加をお待ちしています。

会 場：大和ハウス工業株式会社 本社ビル

大阪市北区梅田三丁目3番5号 ☎/ 06-6346-2111

■第一部：講演会 15:00~17:00

○挨拶 木村 宗光 副理事長・元大和ハウス工業(株)取締役

○第一講演 「世界と日本——電線類地中化事業の違い」
高田 昇 理事長・立命館大学教授

○第二講演 「景観まちづくりの促進に向けて」
大阪府都市整備部総合計画課 企画推進課長補佐 安渡 優氏

○第三講演 【事例研究：花見小路】
京都市会議員 隠塚 功氏

○第四講演 【事例研究：コモンシティ星田】
元大阪府職員 鈴木映男氏

■第二部：交流会 17:30~19:00

お問合せ・お申込み先

NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 井上・根井

Mail: info@NPNPC.org http://nponpc.org Tel: 072-653-5811

【特集】“NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク”年次報告

今月号では、総会での審議・決定事項も含め、年次報告を特集します。

1. 会員数

	2009年6月会員数	2010年6月会員数
正会員	22名	22名
賛助会員	2名	2名

前年度は、3名の方が退会されましたが、3名の方が入会していただき、会員数に変動はありません。今年度も、会員の拡大に努めるとともに、会員間の情報交換をより密にし、様々な分野の会員の方が協力し合って、電線をなくす活動を推進するNPOを目指して尽力して参ります。

2. 前年度収支

収入	支出
① 会費…………… 136,000円	① 事業費…………… 310円
② 事業費…………… 899,500円	② 管理費…………… 880,780円
③ その他…………… 458円	

前年度の収支差額は、+154,868円でした。会費以外に、コンサルティング事業による収入がありました。今年度も引き続きコンサルティング事業の受注を目指し、電線類地中化の推進に努めていきます。

3. 前年度の主な活動

(1) 「実践！美しい街作りセミナー」の開催

今井町と奈良町で、「美しい街作りセミナー」を開催することができました。行政の方に講師を務めて頂いたり、街並み見学を行うことにより、電線類地中化を進めている古都の現状について、よく理解することができました。

(2) 「異業種交流会」の開催

前年度から「異業種交流会」をスタートすることができました。様々な業種の方々が活発に意見を交わされ、とても有意義なものとなりました。この会をきっかけとし、業種間の協力体制が強まり、電線類地中化が促進されることを期待します。

(3) コンサルティング事業「大阪府枚方宿・岸和田市・柏原市歴史的町並みコスト削減提案」

大阪府より委託を受けたコンサルティング会社からの依頼で、該当地区の電線類地中化実現の為に施工提案やコスト削減提案を実施しました。

(4) 『電柱のないまちづくり』の出版

多くの方のご協力により、書籍「電柱のないまちづくり」を出版することができました。6月後半から書店にも並んでおり、我々もチラシを配布して宣伝しており、ますますの売れ行きです。この書籍を多くの方が読むことによって、電線・電柱のない町の良さが理解され、より一層電線類地中化が進むことと思います。

4. 今年度の活動方針

設立から3年が経過し、書籍の発行も行うことができました。

今後の方針としては、会員の更なる拡大、コンサルティング事業の推進、電線類地中化コストの低減についての調査・研究、商店街を対象とした無電柱化シミュレーション及び社会的認知度を上げるためのセミナーや写真展等を行っていく予定です。また、電線類地中化の基本法案を作成していくための活動を始め、法により電線類地中化の推進が図られるよう、働きかけていきたいと考えています。

5. 今年度の活動計画

(1) 電線のない街づくりコンサルティング

電線のない街づくりを実施したい団体へ、電線類地中化の企画、設計、施工管理までのコンサルティングを行います。

(2) 電線類地中化シミュレーションサービス

電線のない街まちづくりに対して、電線類地中化のシミュレーション画像を提示し、地中化の効果を視覚的に訴えることができるサービスを開始します。

(3) 電線類地中化基本法提案委員会の設置

無電柱化促進に向けた新たな法制度の提案を策定します。

3年後に電線類地中化基本法の衆議院議長へ提出を目標とし、初年度は有識者に対し参加を呼び掛け、電線類地中化基本法提案委員会を設置します。

(4) 電線類地中化の普及にむけたコスト縮減と短工期工法研究

地域特性を生かした景観づくりのため、効果の定量把握と、必要施策・コストについての調査研究を行います。

(5) 広報事業

書籍「電線のないまちづくり」出版記念セミナー(東京と大阪にて)や、活動記録リーフレット・DVDの制作を行います。

(6) 情報収集事業

異業種交流会と意見交換会を2カ月に1度行う予定です。

(7) 研修教育事業

美しい街づくり写真展や、実践！美しい街づくりセミナーを開催します。

昨年は、書籍発行という一つの大きな節目を迎えました。このような形で、電線・電柱のない街の良さを啓蒙できる機会が出来たのは、私たちとしても、非常に嬉しい限りです。しかし、書籍を発行して終わるのではなく、これを契機として、日本の電線類地中化をさらに促進していきたいと考えております。今後とも、お力添えの程、宜しく願い申し上げます。

当NPOではメールマガジンも配信しており、電線地中化に関するコラム・情報を月2回お楽しみいただけます！ぜひこちらにもご登録ください！

→ <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

当NPOのHP(ホームページ)でも、最新情報を詳しく載せていきますので、ぜひこちらへもアクセスしてください！
<http://nponpc.org/top.aspx>

